

大岡川に、暮らす、働く、学ぶ、遊ぶ、人 柿澤寛さん『横浜SUP倶楽部』代表

一生懸命遊ぶ大人達いっぱいの大岡川流域ですが、トップバッターをお願いしたのは、桜枝橋にある『横浜SUP倶楽部』代表の柿澤寛さん。「ここで毎日SUPに乗ろう！」と桜枝橋をクラブの拠点とされて3年あまり。今や街の景物語と言われるようになったSUPの魅力と今後の抱負をうかがった。

SUP(サップ=Stand Up Paddle board)は、サーフィンに比べボードが大きく、ほとんど



『横浜SUP倶楽部』代表・柿澤寛さん。「一生懸命遊ぶ大人！」夢の拠点、桜枝橋にて。

の人が1時間足らずの講習で乗れるようになる気軽なスポーツである。加えて、水上散歩をしながら有酸素運動と体幹トレーニングを同時に行えることが、人気の理由だろう。

しかし柿澤さんは、危険な場所へも比較的簡単に漕ぎ出せようゆえの事故を危惧されている。また、わずか数年の間にSUP人口が急激に増加したため、世間では「マナーを守らず海や川の秩序を荒らす者がいる」と苦情も聞かれています。

パイオニアともいえる『横浜SUP倶楽部』は、周囲と共存して安全に楽しく遊ぶことをモットーとし、安全装備の絶対厳守で、常に水上の危

険に備える。メンバーが、大岡川に行く遊覧船や釣り船やボートの方々と、いつも親しく声をかけ合う光景が印象的だ。

夢はオリンピック!

『横浜SUP倶楽部』ができてから、桜枝橋周辺のゴミが少なくなり、護岸のコンクリートに付着した貝類がキレイに取り除かれたことは大岡川では有名な話。NPO法人 海の森・山の森事務局呼びかけのリパーク活動や自転車引き上げ作業にもご尽力いただいた。こうした活動は、環境保全やクリーンアップのためばかりでなく、川で遊ぶ人たちの事故や怪我を防ぐためでもある。

地域や仲間とつながることは、環境を保全し事故を予防し遊び場をまもることにつながる。



船が少なく水面が穏やかな早朝。大岡川取り囲みのゴールデンタイムに、みなとみらいの絶景を目指す!

これは、日常生活全般にもあてはまることだろう。

こんな柿澤さん率いる『横浜SUP倶楽部』の夢は、自立したクラブチームに育て上げ、SUPがオリンピック種目となった時に、この大岡川からオリンピック選手を出すこと。

記者もこの夏、SUPをはじめ。一緒にオリンピックを目指そう!

横浜SUP倶楽部
<http://yokohamasup-club.com/>

大岡川「PGT大作戦」を 決行!

陸上班、SUP班の 共同ゴミ拾い!

6/25(土)、主催:NPO法人海の森・山の森事務局、横浜SUP倶楽部、協力:横浜リパークリクラブ、NPO法人濱橋会、TOTO株式会社横浜支社にて、大岡川「PGT大作戦」を行いました。

PGTとは、「PプラスチックGゴミT獲ったどお」の略称です。大岡川河口で、この川から東京湾へプラスチックゴミ流出を防ごうという活動です。

PGT大作戦の特にユニークなところは、川岸の道の放置ゴミや川岸に引っかかっているゴミを拾うだけでなく、今まで拾えなかった川面を下ってくるゴミを回収すること。それは、川ゴミを、SUP(サップ)というサーフィンより大きいボードの上で立ってパドルで漕いで捉えます。今まで獲れなかった水面や水面下を浮遊するゴミにも手が届くのです。

この日、1時間半ほどで、プラスチックゴミを中心に陸上班25.77キログラム、SUP班15.40キログラム、合計41.17キログラムの川ゴミを回収しました。そのうち、タバコの吸い殻がなんと7,360本以上もありました。

深刻な プラスチックゴミ汚染

現在、地球のいたるところで海洋へのプラスチックごみ流入問題が深刻視されています。故意か



SUPでたくさんプラスチックゴミを拾える

そうでない無意識かを問わず、世界中で年間800万トンものプラスチックゴミが海に捨てられていると考えられています。そのほとんどが河川から海への流出。道ばたに捨てられ放置されたレジ袋、菓子やおにぎり等の食品の包装、ペットボトルなどが雨に流され、それからまた、直接川に投げ込まれたプラスチックゴミが、そのまま川を下って海に流れ込んでいます。

流れ込んだプラスチックゴミは海洋を漂い、分解することなく砕けて細かくなって細片化したり、粒子になったりします。細かくなったプラスチックゴミをウミガメや海鳥が誤食、内臓に溜め込みます。5ミリ以下の粒子になった「マイクロプラスチック」と呼ばれるものは、サカナたちがプランクトンと一緒に食べて体内に溜め込みます。つまり、プラスチックゴミを溜め込むサカナが、ぼちぼち私たちの食卓にも上り始めていることになるのです。このプラスチックスプの海をこれ以上進行させないようにするには、このような地道な努力が欠かせません。



PGT大作戦は、陸上班とSUP班に分かれて、より効率よくプラスチックゴミを中心に拾う環境活動です。撮影:加藤哲

気になるお店があり、オシャレな街灯や橋がある。いたるところに鳥がいて、「あれはマガモ」「あれは鶺鴒」と、鳥に詳しい本紙デザインスタッフの解説を聞きながら、度々立ち止まる。ゴミを見つけては嘆き、巨大な鯉を見つけては歓

声を上げ、のどかな蒔田公園で一休みして、本紙の将来構想で盛り上がった。

蛇行したり、暗渠になったりして、時々見失う川を追いかけながら歩き、ウソのように静かな源流域の森でリスや野鳥や昆虫に迎えられたのは、日も暮れかけた午後5時だった。



大岡小学校前付近を泳ぐカルガモ

まだまだ寄り道したい!

この創刊号に合わせ、改めて自転車で大岡川の再遊行に挑戦した。欲を言えば電車やバスとの連携にも便利な折りたたみ自転車で、と試みた大岡川探訪《全域編》。思う存分鳥を追いかけ、路地を行き、寄り道をして、また新たな発見をつないだ。次号以降では上流・中流・下流などに分けた続編、《各流域編》を企画中。

創刊準備号で報じた「自転車の沈む大岡川」だが、引き上げ計画も順調に進む中、これからは「自転車の似合う大岡川」を、様々な角度からご紹介予定。ご期待あれ!

大岡川には こんなモデルが よく似合う

Pacific CARRYME
AL7005/ Yellow
サイズ(折りたたみ時):
32cm(H)×91cm(W)×25(D)
重量:8.4kg
(株)ファビタ
<http://pacific-cycles-japan.com/>



大岡川野鳥観察記

No.2 ハクセキレイ

白鶴鴒(Motacilla alba lugens)スズメ目セキレイ科セキレイ属/21cm

尾を上下に振りながら、タカタカと歩く姿が可愛いセキレイの仲間ですが、その中でも身近でよく

見ることができるのがこの「ハクセキレイ」です。とてもよく似た鳥に「セグロセキレイ」がいますが背中の色ではなく頬の色が黒いか白いかで見分けがつけます。



撮影地:大岡川・さくら橋下流

多くの小鳥は足を揃えてピョンピョンと跳ねるように移動するのですがセキレイの仲間たちは足を互いに動かして高速で走ります。飛び方にも特徴があり、羽を広げたり閉じた



りしながら上下しながら波型に飛びます。市街地の水辺など低地を好んで生息し、主に水中や岩かけ、土中の昆虫やミミズなどの生き物が主食で、時には空中で虫を捕まえることもあります。かわいらしい姿とは裏腹で意外とワイルドな鳥なんです。なのでスズメやハトのように人が食べているパンやスナックなどに興味を示して寄ってくることは滅多にありません。もし見かけたら何を食べているのかじっと観察してみたいですね。

Information

事務局からのお知らせ

●大岡川PGT大作戦(リパークリクラブ)
実施予定
7/23(土)、8/6(土)、8/20(土)、9/17(土)、9/24(土)
場所はいつでも桜枝橋付近、
時間は10:00~11:30
10月以降の予定は決まり次第お知らせします。

●滝で癒され、私たちの水道の水の ルーツを探る「神奈川の滝探検ツアー」

実施予定
8/21(日)、8/28(日)、9/11(日)、9/25(日)
10月以降の日程は追ってお知らせします。
滝探検ツアーの詳細は、<http://taki-tour.jimdo.com>
参加希望者は必ずご予約ください。

NPO 海の森・山の森 事務局

まごころ・信頼・サービスをお届けします。

株式会社
横濱屋

- 業務用酒類卸
- スーパーマーケット
- お酒スーパー

●本社 横浜市南区宮元町4-93 TEL 045-712-2670
●業務用酒類卸(東神奈川営業所)
横浜市神奈川区千若町2-1 TEL 045-440-6440

天麩羅・肴
登良屋

横浜市中区吉田町2-3
045-251-2271